

**令和7年度**

**「運営に関する計画」**

(最終評価)

**大阪市立天下茶屋小学校**

**令和8年3月**

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、今年度はアフターコロナということで、活動の制限はなくなったが、引き続き子ども達の安全面を最優先に考え工夫しながら取り組んだ。

(学力向上)

学力向上に関しては、昨年度の全国学力テスト、すくすくウォッチ、学力経年調査においては、全学年で前年度を下回り、全国平均および大阪市平均を下回った。漢字や言葉の意味や基本の計算さえもできていない状況で、基礎学力の定着が喫緊の課題である。学習の基本「読み・書き・計算」を学校と家庭が連携して取り組んだ。読みは黙読・音読、書きは視写、計算はタブレットドリルを活用して家庭でも繰り返せるように配慮した。また区の支援事業のジャガピースクール、英語コミュニケーション、読書活動推進事業などとの連携を推進した。学力向上の下支えのため、さらなる読書活動を推進してきた。毎週水曜日の朝8:30~8:40の10分間に「読書タイム」を設け、また学校司書による読み聞かせ等の取り組み、児童の委員や保護者ボランティアによる図書館開放や読書の木、図書ガチャ、図書おみくじなどの図書委員会による活動など可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。

(教員の授業力向上)

教員の授業力向上に関しては「学力向上支援チーム」のスクールアドバイザーによる全教員への指導・助言を依頼した。今後も相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。あわせて、本校の地域の特性や家庭状況もあり、運動やスポーツをする機会が少なく、一週間の運動量が60分以内の児童の割合が男子17.6%、女子40%と全国や市と比べても著しく高い割合になっている。子ども達の運動不足を解消するため、昨年度から研究教科を体育科とし、運動やスポーツが苦手な児童でも手軽に楽しく取り組める表現運動やリズム運動を学校全体で取り組んだ。昨年度は1月22日に区の教員研究発表会で1・3・5年生の実践を発表した。

(健康・体力)

元気アップ週間や手洗い週間などを設定し、手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通し健康の保持増進に積極的に努めた。また今年度は縄跳び週間と大縄跳び大会を1・3学期の2回に増やし、2・3学期にはかけあし週間でインターバル走を取り入れた。また希望者だけではあるがラダーや平均台を使ったアスレチックも行った。しかし深刻なのが近年の気温上昇で、夏場の猛暑はともかく10月ころまで夏日が続き熱中症対策が喫緊の課題である。すでに気温の状況によりTeamsを活用した集会やエアコンの入った多目的室の活用などを行っているが、さらに夏場の運動やプール水泳なども危険のため制限する必要があり、運動会を6月に、来年度の林間から10月に近場で一泊に変更した。水泳の時期・場所および体育館にエアコンが設置されるまでは体育の授業の場所の検討や日よけ対策も必須である。

(規範意識・自尊感情)

学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を守る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。また児童会活動では「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやる心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めた。

子ども達の心の状態を把握したり子ども達からのSOSをいち早くキャッチするため、タブレット端末のスクールライフノート「心の天気」「相談」などの機能を活用したり、いじめや不登校など

生活指導における情報交換を教職員間で定期的実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童は少なからずおり、改善はしていないという問題は残るもののその他の生活指導における問題は解決できている。

#### (安全教育)

校区が西成ということもあり、児童の安全を最優先に取り組んだ。毎日の通学路の見守り活動、巡回は昨年度に引き続き行い、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTA が中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども110番の所在を知らせる取組を行った。

#### (教育環境の充実)

近年、働き方改革が叫ばれて久しくなるが、教員不足の現状もあり少しずつではあるが改善されてきた。本校でも「ゆとりの日」NO 会議デーやセット時間の設定、会議の効率化を進め、時間外勤務時間の短縮の取組みを行った。また学校協議会や PTA 実行委員会などで保護者や地域にも周知し、教員の負担軽減への理解と協力を依頼した。さらに ICT 機器活用や若手教員育成のため研修活動を増やし、外部講師も積極的に招聘した

#### (課題)

本校の大きな課題は家庭の教育力にある。宿題や復習など学力の定着には欠かせないが、保護者の協力は難しく、端末の活用などさらなる工夫が必要である。

熱中症対策については、市教委の指示・連絡に沿って取り組んでいくが、現状として、子ども達の特に関心命の危険にかかわる状態であり、時として英断も必要であり、学校としての判断を検討していきたい。

今後も教員の働き方改革を、保護者や特に地域の方にどうぞ理解していくかが課題である。区や市の協力を得ながら、教員の負担軽減をさらに進めていきたい。

「いじめ」等の問題では、学校だけで問題解決できないケースが多く、相談や研修などスクールロイヤーの活用も検討していきたい。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度末の全国学力・学習状況調査における「自分には良いところがありますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を全国平均以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を90%以上にする。

#### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度までに全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を0.95以上に

する。

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度3学期における校内アンケートで「学習は楽しい」と答える児童の割合を全体の90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 校内アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは好きですか」の項目における肯定的な回答を80%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において学習用端末を毎日使用した学校の割合を100%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度3学期における校内アンケートで「あいさつが、しっかりできている」と答える児童の割合を全体の80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。

#### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる(思う)」に回答する児童の割合を40%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の児童

の割合を20%以下にする。

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- 令和7年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。
- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 総括

### 令和7年度

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更され、アフターコロナということで、活動の制限はなくなった。しかし最近では、気温が上昇し「危険レベルの暑さ」によって運動やスポーツなど活動が制限されている。子ども達の安全面特に熱中症対策を最優先に考え、工夫しながら取り組んだ。

学力向上に関しては、一昨年度の全国学力テスト、すくすくウォッチ、学力経年調査においては、全学年で前年度を下回り、全国平均および大阪市平均をも下回り、基礎学力の定着が喫緊の課題であった。昨年は学習の基本「読み・書き・計算」を学校と家庭が連携し、読みは黙読・音読、書きは視写、計算はタブレットドリルを活用して家庭でも繰り返せるように配慮した。また区の支援事業のジャガピースクール、アドバンス、まなび塾、読書活動推進事業などとの連携を推進した。学力向上の下支えのため、さらなる読書活動を推進してきた。毎週水曜日の朝 8:30~8:40 の10分間に「読書タイム」を設け、また学校司書による読み聞かせ等の取り組み、児童の委員や保護者ボランティアによる図書館開放や読書の木、図書ガチャ、図書おみくじなどの図書委員会による活動など可能な限り児童が読書への興味関心をもつ取り組みや工夫を行ってきた。その成果はすぐに表れ、今年度の全国学力テストでは全国比で国語 0.94、算数 0.98 で前年度より改善され全国平均に近づいた。ま

た、今年度は「総合的読解力」の育成に努め、年間計画を立て進めてきた。さらに5、6年生では見えない学力と言われている「非認知能力」の向上にも取り組んだ。また夏休みと冬休みの課題として「自主学習」の提出を進め、休み明けにコンテストということで優秀なものについては表彰するなど子どもたちの学習意欲を高める取り組みを始めた。

教員の授業力向上に関しては「学力向上支援チーム」のスクールアドバイザーによる全教員への指導・助言を昨年度から依頼し今年度も継続し依頼した。できる限り相互授業参観の機会を増やし、特に若手の授業力向上を図りたい。

本校の地域の特性や家庭状況もあり、運動やスポーツをする機会が少なく、一週間の運動量が60分以内の児童の割合が男子15.4%、女子12.4%と昨年度よりは増えてきているが、特に男子については、全国や市と比べても著しく高い割合になっている。子どもたちの運動不足を解消するため、一昨年度から研究教科を体育科とし、運動やスポーツが苦手な児童でも手軽に楽しく取り組める表現活動やリズム運動を学校全体で取り組んだ。昨年度は1月22日に区の教員研究発表会で1・3・5年のリズム運動の実践を発表し、今年度は表現運動に絞って校内研究授業、研究協議、小教研の体育部による研究授業を実践し、3年間の総決算を行った。

元気アップ週間や手洗い週間などを設定し、手洗いの励行、毎日の健康状態の管理等を通し健康の保持増進に積極的に努めた。また縄跳び週間と大縄跳び大会を1・3学期の2回、3学期にはかけあし週間でインターバル走を取り入れた。しかし深刻なのが近年の気温上昇で、夏場の猛暑はともかく10月ころまで夏日が続き熱中症対策が喫緊の課題である。すでに気温の状況により Meet を活用した集会やエアコンの入った多目的室の活用などしているが、さらに夏場の運動やプール水泳なども危険のため制限する必要がある、運動会を6月に、林間学習は11月に近場で一泊に変更した。水泳の時期・場所および体育館にエアコンが設置されるまでは体育の授業の場所の検討や日よけ対策も必須である。

学校生活における基本「時を守り、場を清め、礼を正す」では、「時間を守る」「校内をきれいにする」ことの重要性を朝会場の場や学校だよりを通して訴え、児童の自発的な行動を目指した取り組みも行った。また児童会活動では「あいさつ週間」を設定し自ら進んで「あいさつ」することの大切さに気付かせることで、思いやる心や感動する心、互いに違いを認め合える、豊かな情操の育成に努めた。

子どもたちの心の状態を把握したり子どもたちからの SOS をいち早くキャッチするため、タブレット端末のスクールライフノート「心の天気」「相談」などの機能を活用したり、いじめや不登校など生活指導における情報交換を教職員間で定期的実施することに加えて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、各家庭との連携を図るなど、問題の解決に努めた。不登校児童は少なからずおり、改善はしていないという問題は残るもののその他の生活指導における問題は解決できている。

校区が西成ということもあり、児童の安全を最優先に取り組んだ。毎日の通学路の見守り活動、巡回は昨年度に引き続き行い、地震・津波や火災に対する避難訓練、集団下校や保護者への引き渡し訓練、不審者対応訓練を実施した。さらに関係諸機関とも連携し、非行防止教室や交通安全教室も実施した。PTA が中心の通学路プロジェクトで危険地点の再確認や子ども 110 番の所在を知らせる取り組みを行った。

近年、働き方改革が叫ばれて久しくなるが、教員不足の現状もあり少しずつではあるが改善されてきた。本校でも「ゆとりの日」NO 会議デーやセット時間の設定、会議の効率化を進め、時間外勤務時間の短縮の取り組みを行った。また学校協議会や PTA 実行委員会などで保護者や地域にも周知し、教員の負担軽減への理解と協力を依頼した。さらに ICT 機器活用や若手教員育成のため研修活動を増やし、外部講師も積極的に招聘した。

今後も学校では、予想される Society 5.0 といわれる社会に順応できるように、ICT 機器の導入やネットワーク切り替えなど ICT 教育環境の整備が急速に進んでいく。子どもたちが誰一人取り残されないよ

うな取り組みを推進していく必要がある。そのために本年度の教育活動を、本自己評価を踏まえ、次年度の教育改善へとつなげていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li> <li>○令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> <li>○令和7年度3学期における校内アンケートで「あいさつが、しっかりできている」と答える児童の割合を全体の80%以上にする。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を進めている」と肯定的に答える保護者の割合を前年度以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 いじめや問題行動の未然防止に努めるとともに、早期発見・指導・解決に学校全体で取り組む。</li> <li>2 基本的な生活態度の育成に努め、規律と秩序のある教育環境の実現に取り組む。</li> <li>3 防災・減災教育および安全教育の充実に努め、避難訓練、防災訓練等の実施により災害時等の避難行動の定期的確認に努める。</li> </ol>	<b>B</b>

<p>指標</p> <p>1 こども生活まなびサポーターと連携し、スクリーニングシート(いいことみつけ)を作成するとともに、6月と12月に「いじめについてのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期解決につとめる。また、いじめ・不登校・虐待など生活指導上の問題について、毎月の「スクリーニング会議Ⅰ」で、情報を共有し、共通理解を図る。</p> <p>2 学期に1回、あいさつ週間を設定し、あいさつ運動を行う。 4月、9月、1月の生活目標を「登下校の時刻を守る」に設定し、遅刻防止活動に全教職員で共通理解し、家庭との連携を図る。隔週1回異学年での集会を行い、異学年交流の機会を設ける。</p> <p>3 地震(津波)、火災、台風および不審者の侵入に対する避難訓練を実施し、災害時の避難行動の定期的確認に努める。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>指標 1</p> <p>スクリーニングシートからSKIPの「いいところみつけ」に移行し、いじめ・不登校・虐待など生活指導上の問題について、毎月のスクリーニング会議Ⅰ(生活指導連絡会)で、情報を共有し、児童の共通理解を図った。</p> <p>6月・11月・2月に「いじめについてのアンケート」の実施し、いじめの早期発見・早期解決に努めた。また、毎日の心の天気より児童の様子の変化を把握し、適切な対応を進めた。</p> <p>指標 2</p> <p>学期に1回のあいさつ週間は、1学期は5月、2学期は11月、3学期は1月に実施した。4・9・1月の月目標である「登下校の時刻を守る」に対して、声かけや教職員の看護当番、全校朝会での指導を通して、遅刻をする児童が少なくなってきたが、引き続き声かけと家庭との連携が必要である。また、児童集会は、月に2回実施することができ、異学年との交流を定期的に行った。</p> <p>指標 3</p> <p>地震・火災・台風の訓練、起震車等を用いた防災訓練は終了している。訓練を平日に行うことで起震車を呼ぶことができ、より一層地震への理解を深めることができた。</p> <p>引き渡し訓練は地震を想定し11月に行った。防犯訓練は職員向け、児童向けの両方を1月に行った。</p> <p>地震津波訓練は、3月に実施する。</p> <p>自転車講習は、二年に一回、体育館で行う。今年度は実施しない。</p>	

次年度への改善点	
<p>指標 1 来年度も引き続き継続していく。</p> <p>指標 2 一学期のあいさつ週間は4月時点では委員会が発足しておらず、実施困難。また2学期のあいさつ週間に関しては「赤い羽根共同募金」と抱き合わせで行うため、11月が適当。来年度は全校遠足も計画されているため、縦割り班のより一層の充実が求められる。そのために、児童会活動部と集会委員会の連携が必要になってくる。</p> <p>指標 3 来年度も引き続き継続していく。保護者への引き渡しについては、一学期前半に行う。自転車講習も二学期を予定。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳年間指導計画に基づき、道徳の時間はもとより全教育活動を通じた道徳教育を行う。</li> <li>2 一人一人を大切にするとともに、特別支援教育の充実を図る。</li> <li>3 さまざまなものに触れ合い、個性や想像力、自分を表現する力をはぐくむ情操教育を推進する。</li> <li>4 多文化共生教育の取り組みを推進する。</li> </ol>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和7年度末の校内アンケートで「学校のきまりを守っていますか」という設問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。</li> <li>2 平和について学び考える期間を設け、命の大切さを強く認識させる。特別支援教育について支援方法の工夫・充実に努め、教育委員会等と連携のもと児童理解研修を実施する。</li> <li>3 豊かな情操を育むため、芸術にふれあう機会を設ける。地域の方を講師として迎え、我が国や地域の文化・伝統を学ぶ体験活動を実施する。</li> <li>4 多文化共生教育を推進する取り組みとして「フレンドクラブ」を開催する。</li> </ol>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>指標 1 道徳教育の全体計画や年間指導計画に基づき、各学級週1時間の道徳科の学習を計画的に実施できた。令和7年度末の校内アンケートの「学校のきまりを守っていますか」の項目で、肯定的回答をした児童の割合は84%で、前年度末の81%を上回った。</p> <p>指標 2 人権教育の取り組みとして、7月に平和学習「ピース天下茶屋」を実施した。戦争についてのビデオを視聴し、平和について自分の考えを短冊に書き玄関に掲示した。1学期末個人懇談会の時に玄関ホールに掲示したことで、児童はもちろん保護者も児童の平和についての考えを知るきっかけとなった。 特別支援教育については、年度初めに特別支援学級に在籍する児童について、個別の教育支援計画をもとに研修を行い、合理的配慮についての研修も行った。通常学級在籍で支援を要す</p>	

る児童についても、職員全体で共通理解できるよう研修を行った。今年度、9月と1月の計2回、玉出小学校よりインクルーシブ教育推進スタッフの長野先生に来校していただき、授業について支援のいる児童への個別アプローチ法などについての助言をいただき、指導に活かすことができた。

#### 指標3

芸術にふれあう活動として全学年が6月にフィルハーモニーの方々を迎え、音楽鑑賞会を実施した。さらに6年生が10月心の劇場、11月レザークラフト、5年生が12月お茶体験、1年生が1月に昔遊び体験を実施した。

#### 指標4

昨年度に引き続き、本校児童の事情に合わせ、ベトナム・韓国と中国の国際クラブ指導者を要請し、取り組みを進めている。6月に開講式を行い、1～6年生49名（外国につながりを持つ児童は中国4名、ベトナム1名、韓国1名）が参加している。学年ごとに中国とベトナム・韓国の2つのコースに事前に分かれ、1回目は開校式、2回目はリズム・歌、3回目は工作を実施した。11月には料理会を行い、計画通り進めることができた。

### 次年度への改善点

#### 指標1

引き続き道徳科の学習を計画的に実施していく。アンケート項目「学校のきまりを守っていますか」だけで道徳教育についての達成状況を考えることはできないので、項目についての検討が今後必要である。

#### 指標2

人権教育の取り組みとして、「ピース天下茶屋」は次年度も継続していく。特別支援学級に在籍する児童や通常学級在籍児童で支援を要する児童について、今後も職員全体で共通理解できるように研修をしていく。今後も教育委員会等と連携のもと、児童理解研修を実施していく。令和10年度の通級指導教室開設に向け、通級指導教室の研修を次年度以降に予定している。

#### 指標3

来年度も学年ごとに実施できるものは引き続き、実施していきたい。

#### 指標4

来年度も、活動ごとに民族講師に来ていただき取り組みを進めていく予定である。

また、ルーツのある児童にも声をかけ、子どもたちが楽しく交流できる場となるような工夫が必要である。

大阪市立天下茶屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる(思う)」に回答する児童の割合を40%以上にする。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を20%以下にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。</li> <li>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童がそれぞれの目標に向けた学習に取り組む姿勢の定着を図る。</li> <li>2 体育科を中心に、他教科との結びつきを考え児童の発達段階に応じた適切な指導ができる授業実践を行う。</li> <li>3 学びサポーター、特別支援サポーターと協働しながら、個に応じた指導を行う。</li> <li>4 理科専科教員が中心になって、実験・観察の授業を増やす。</li> </ol> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力経年調査にむけて、自分自身が設定した目標(合格等)を達成するよう取り組ませ、結果について自己反省を促させる機会とする。</li> <li>2 体育科を研究教科として計画的に授業研究を進め、一人1回以上の公開授業に取り組む。同時に他の教科・領域についても研修を進め、教員の指導力向上に努める。</li> <li>3 年度末に実施する「学校生活アンケート」の次の項目について、肯定的回答の割合を令和6年度の結果より向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習は楽しい」</li> <li>・「調べたり発表したりする学習は好きである」</li> <li>・「宿題や学習道具の忘れ物は、ほとんどない」</li> </ul> </li> <li>4 月に1回以上、理科室を利用する。学期に1回以上、学習園を利用する。</li> </ol>	<b>B</b>

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 指標 1

各単元の学習後に、タブレットを活用したふりかえりを行うとともに、学力経年調査に向けた類似問題に取り組みさせることで、児童が自らのつまづきを把握し、自己分析できるよう工夫した。また、パワーアップタイムでは、国語、算数、英語を重点的に位置付け、基礎基本の確実な定着を図った。さらに、今年度より夏休み・冬休みに「自主学习」の課題を全学年で設定した結果、回を重ねるごとに内容の充実やまとめ方の工夫が見られ、家庭学習への意識の高まりがうかがえた。

### 指標 2

年度当初に計画した校内研究授業は予定通り実施することができた。毎回、指導講評の講師を招き、授業の振り返りや専門的な知識を学ぶことで体育科指導の実践に繋がった。一人1授業では、スクールアドバイザーと連携して参観日時を決定し、授業後には指導講評の時間を設けて課題状況に対応した指導助言を受けて今後の授業改善へと活かすことができた。また、計画に沿って全教員による授業研究を実施して教員の資質・指導力向上に努めることができた。

### 指標 3

学校生活アンケートの項目で肯定的に答えた児童の割合は、「学習は楽しい」において、今年度は81.8%であり、前年度末の85%よりもわずかに下回った。「調べたり発表したりする学習は好きである」は、今年度は65.9%で、前年度の71%を下回った。また、「宿題や学習用具の忘れ物は、ほとんどない」は、今年度は77.2%で前年度の72%よりも約5%上回っている結果となった。

日々の学習環境をよりよくするため、学びサポーター・特別支援サポーターと連携しながら、国語科、算数科を中心とした必要な教科において、教室への入り込み支援を行った。

### 指標 4

計画通り、理科室や学習園の利用ができた。

## 次年度への改善点

### 指標 1

自主学习を中心に家庭での学習習慣が定着できるように今後も家庭と連携していきながら学びの姿勢を整えてく。

### 指標 2

来年度も教職員での共通理解を図り、授業力向上に向けて取り組んでいく。

### 指標 3

調べたり発表したりする学習については、これまで以上にタブレット端末を活用して発表する機会を増やしていく。

宿題を含む忘れ物をする児童は固定化されており、引き続き児童自身が「忘れ物をしない」意識を高められるようにしたり、保護者へ啓発したりしていく。

### 指標 4

来年度、学校の外壁工事が行われる関係で、学習園の使用が困難になると思われる。使用可

<p>能な学習園を効率的に使用する必要がある。また、理科室の教材・教具に関しても、必要物品がなかったり、数が足りなかったりしている状況なので、さらに拡充整備していく必要がある</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 全校で英語に触れ合う時間帯を設定し、低学年からの英語学習の取り組みを推進する。</li> <li>2 蔵書管理充実に向けた環境整備を進めるとともに、保護者や地域と連携して本に親しむための催しを企画することにより、読書への興味関心を高める。</li> </ol>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「DREAM」などの教材から、毎月の「歌」や「お話」について全校一斉学習を行い、全学年で英語活動を実施する。</li> <li>2 学校図書館補助員及び図書館ボランティアによる協働運営体制づくりを継続発展させるとともに、バーコードによる蔵書管理を充実させるための環境整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間以外での図書館の開館回数を35回以上にする。</li> <li>・図書委員会による積極的読書活動の起点となる活用を図り、児童ひとりあたり年間読書数の目標を20冊とする。</li> </ul> </li> </ol>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>指標1</p> <p>各担任に活動計画を配布し、短時間学習の時間に実施することができた。第3学年～第6学年の外国語科の授業では、ティームティーチングとしてC-NETを活用した。</p>	
<p>指標2</p> <p>週1回学校司書が来校し、読み聞かせ活動や図書館開放を行った。蔵書管理や蔵書構成の充実のために、学校司書による貸出可能図書や新書のバーコード登録化、夏休みには蔵書のNDC順への整理を行った。授業時間以外での図書館の開館回数は、今年度38回であった。図書委員会の活動では、木曜日に昼休みの図書館開放と金曜日に紙芝居の読み聞かせ活動をしている。水曜日には読書タイムを行い、西成図書館から読書タイム用の本を借り、児童が本を読む環境を設けている。10、11月の読書週間では、読書カードを用いた読書活動を行った。年間読書数の目標である20冊が達成できている児童は、94.9%（197人中187人）である。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>指標1</p> <p>次年度も引き続き取り組んでいく。</p>	
<p>指標2</p> <p>図書室に学年ごとに合わせた展示スペースを設けて、児童が興味・関心をもてるような声掛けをしていくとともに、手に取りやすいような取り組みを考える必要がある。</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達段階に応じた睡眠に関する指導により健康への意識づくりを行う。</li> <li>2 手洗いの励行などの日常指導による感染症予防に努める。</li> <li>3 食育指導の充実につとめ、給食時間における「食」への興味関心を深める取り組みを行う。</li> <li>4 体力づくり、運動習慣の定着をめざし、「なわとび週間」「なわとび大会」「かけ足週間」を設定する。</li> </ol>	B
<p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校生活アンケートにおける「毎日、10時くらいには寝るようにしている」の項目について肯定的に答える児童の割合を75%以上とする。</li> <li>2 感染症予防について、1・2年生で特別活動、3年生以上で感染症・手洗いに関する保健学習を実施し、進んで手洗いができるように指導すると共に、「保健だより」等により保護者への啓発を行う。</li> <li>3 ・6月に「食育週間」1月に「給食週間」を設定し、食育を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食だより・栄養だよりの定期的な発行により保護者への啓発を行う。</li> <li>・令和7年度末の校内アンケートにおける「給食は、しっかり食べている」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を前年度より増加させる。</li> </ul> </li> <li>4 校内アンケートにおける「運動やスポーツは好きですか」の項目における肯定的な回答を80%以上とする。</li> </ol>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>指標 1</p> <p>— 学校生活アンケートにおける「夜は10時くらいまでに寝るようにしている」の項目について肯定的に答える児童の割合は65%と指標の75%には届かなかったが、昨年度は59%だったため、上昇は見られた。</p> <p>学期に1回、元気アップ週間を実施し、基本的な生活習慣についての意識付けを図った。また、2学期には、1・2年生に睡眠についての絵本の読み聞かせ、3年生では筋肉と睡眠について、4年生では骨と睡眠について、5年生では睡眠ホルモンについて、6年生ではレム睡眠とノンレム睡眠についての保健教育を実施した。</p> <p>指標 2</p> <p>発育測定が学期に1回になったことにより、感染症予防についての保健教育を実施できなかったが、学期に1回手洗い週間を設け啓発した。その際、児童保健美化委員会による感染症予防についての紙芝居に取り組んだ。また保健だよりによる啓発も行った。学校生活アンケートにおける「自分の体を守るため、正しい手洗いをしている」の肯定的な回答は93%だった。</p> <p>指標 3</p> <p>近隣校の栄養教諭と連携を図り、年間2回の栄養指導を各学年実施することができた。また、学期ごとに「もぐもぐ週間」を設定し、朝ごはんをしっかり食べて登校することや自分にあった量を残さず食べることへの意識を高めるために、ふりかえりカードを活用して取り組んだ。その結果、学校生活アンケートにおける「給食はすききらいせず、しっかり食べている」の項目では肯定的な回答は87%という結果で前年度より2%向上した。さらに「学校給食週間</p>	

」では、給食調理員さんや食べ物の恵みに感謝する場を設け、食への興味関心の向上に努めた。

#### 指標 4

年間を通じて、11月・2月に「なわとび週間」や2月の「なわとび大会」、12月の「かけ足週間」など、計画的に運動機会を設けた。特に11月の「なわとび検定」の実施は、児童の運動意欲を高めることができた。その結果、学校生活アンケートの「運動やスポーツは好き」という設問では、肯定的な回答が88%と目標としていた80%を上回る結果となった。

### 次年度への改善点

#### 指標 1

睡眠についての数値目標をあげることは、家庭環境の影響も大きいと考えられるので難しい課題である。来年度は、学期ごとに行っている元気アップ週間のうち1回を睡眠に特化した週間にし、意識付けできればと考えている。

#### 指標 2

感染症予防については、学校生活アンケートにおいて継続して高い結果がみられるので、感染症予防に対する意識が高いと考える。来年度も、引き続き、手洗い週間や保健だよりによる啓発を行っていききたい。

#### 指標 3

今後も栄養教諭との連携を図り、計画的に栄養指導を実施するとともに、給食委員会の児童を中心に食へ興味関心がさらに高まるような取り組み内容の工夫に努めたい。

#### 指標 4

来年度より体育館の空調設備が稼働するため、天候や気温に応じて体育館を活用できるよう、柔軟な計画を立てていきたい。

大阪市立天下茶屋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。</li> <li>○令和7年度の小学校学力経年調査におけるデジタル教材を使った学習は楽しいですかの項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。</li> <li>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。</li> <li>○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 メンターの活用により若手教員の育成をはかる。</li> <li>2 派遣教育指導員の活用により、効果的な授業研究を伴う校内研修の充実をはかる。</li> </ol> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 若手教員に対して、指導法や児童・保護者対応について、研修に参加したメンターを中心とした意見・情報交換等を行う研修会を学期に1回開催する。</li> <li>2 研究授業の際、外部指導者を招聘し、指導内容について、専門的見地からの指導助言により深く検証を行える効果的な校内研修を実施する。全教員による授業研究を実施し、研修成果についてまとめる。</li> </ol>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>指標1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、「スキルアップの日」を設定し、メンター研修で授業力向上研修や水泳の研修などを行うことができた。</li> </ul> <p>指標2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して計画通り授業研究、公開授業を行うことができた。外部講師を招き、指導内容について、専門的見地からの指導助言により、活発に討議会が行われ、より深く検証を行える効果的な校内研修を実施することができた。</li> </ul>	
次年度への改善点	
<p>指標1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容について、どのような研修が必要であるか、若手だけでなく教員全員にアンケートをとり、その結果をもとに、より効果的な研修を行えるように計画していくとよいのではないかと。中堅・ベテラン教員も研修会に参加することで、充実した情報交換の場を設定することができると思われる。</li> </ul>	

<p>・年間でその時期に必要な研修を前もって計画をしておくといよい。  (例) 4月学級開き、6月プール水泳と個人懇談、運動会・夏休みに向けて、1月所見の書き方など</p> <p>指標2</p> <p>・本年度は授業研究を低、中、高学年で行い、授業時間を短縮しての全教員の参観を3回行ったが、若手教員の授業力向上のためにも、次年度からは担任の公開授業については、短縮授業とし全教員で参観できるようにしてはどうか。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習者用端末を活用した授業を推進するとともに、プログラミング教育の実践に努める。</li> <li>2 オンライン学習を計画的に実施する。</li> </ol> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ICT活用に努めるため、機器の使用方法や教材の工夫となる研修の実践を行い、学習に活用する。</li> <li>2 端末を活用して、1・2年生はコミュニケーションを中心とした学級活動や学習活動、3年生以上はオンライン学習を学期に1回以上行う。</li> </ol>	<b>B</b>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>指標1</p> <p>・9月にタブレットの入れ替えがあり、新しいタブレットに変更になった。授業での効果的な使い方について、ICT支援員の方と連携して研修会を行うことができた。高学年結果として学習用端末の利用率(全校生徒の80%以上が利用)の状況が9月までは一桁であったが、10月63.6%、11月は76.5%、12月は64.7%と改善され、大きな成果が見られた。</p> <p>指標2</p> <p>・11月に土曜授業として、タブレットの動作確認を全学年で行った。自宅から学校につなぐ方法について保護者とともに確認することで、欠席時でも学校と家庭をつないで、学習や活動に参加することができることを周知することができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>指標1</p> <p>・タブレットの効果的な使い方について、使用状況の大幅な改善からも、児童が抵抗なく使用できるようになってきていることがわかる。次年度もCanvaや生成AIなど、さらに活用の幅を広げられるよう、ICT支援員の方と連携を深め、研修を計画・実施していく。</p> <p>指標2</p> <p>・新しいタブレットに変わり、今年度は全学年で操作や動作の確認を行ったが、来年度は高学年については、簡単なオンラインでの学習を行ってみてはどうか。</p> <p>・欠席時でも普通の授業を自宅で受けられることを保護者にも周知しておく。子どもたちにも操作方法について授業で確認しておく。</p>	